

参加型開発における社会的準備とエンパワーメントを踏まえた  
効果的なアプローチに関する研究  
-バヌアツ共和国における政府職員とチーフの立場の  
2面性を踏まえた開発の分析を通して-

学籍番号：08MD0024

氏名：井出 宗一郎

## 研究の目的と方法

国際社会開発の場において、開発プロジェクトを行う際に「参加型開発」という取組みが注目され続けている。この参加型開発に対する認識については、さまざまな人や状況などによって、さまざまな捉え方がある。先行研究では開発行為を実施する主体とその受益者の立場において、各々の立場から「外部者」と「内部者」に分けて参加型開発の分析が行われている。この際、開発行為を実施する主体が外部者であり内部者でもある中間パターンは政府や援助団体が関係する場合に多く、開発関係者のなじみの深い状況であるが、同時に参加型開発という言葉の曖昧さが最も課題となるパターンである。

また、参加型開発プロジェクトを開始しようとする場合、実施者はその地域に関する情報を持っていないければ、期待どおりの活動、成果となるかは未知数であり、現地住民と接して期待に沿った活動を担えるかを知ろうとする。プロジェクトを吸収する能力が無いと判断した場合には、プロジェクトの初期段階に現地住民の活動意欲向上、社会的環境の調整、住民組織の形成などの「社会的準備」の活動を位置づけることが必要であり、現地住民の「エンパワーメント」の達成にとって社会的準備は不可欠である。

参加型開発をめぐる手法と理念はさまざまな捉え方がされ、その捉え方により「善きこと」、「疑わしきモノ」との立場がうまれているが、現状多くのパターンとしてある開発行為を実施する主体が外部者と内部者でもある中間パターンにおいて、如何に成果につながられるかは課題である。同時に、参加型開発において「社会的準備」は不可欠であり、開発援助におけるエンパワーメントを達成するための取組みについて検討する必要がある。そこで、本研究では前述を踏まえた参加型開発プロジェクトの効果的なアプローチの仕方について、事例分析を通して考察する。

本研究では、筆者が2005年4月から2年5ヶ月間滞在し、関わったバヌアツ共和国（以下「バヌアツ」）でのプロジェクトを事例に検討を行う。筆者はバヌアツでの開発プロジェクトに関わった際に、前述した中間パターンの状況で、開発主体はバヌアツ政

府担当者であったが、効果的なプロジェクト運営、実施の様子を観察できる事例が確認された。これは開発主体であるバヌアツ政府担当者（外部者）が、同時にバヌアツにおける伝統的チーフの立場であったことを生かして、チーフの立場による受益者住民（内部者）として、プロジェクトの運営、内部調整まで積極的にかかわることが効果的なプロジェクトの流れにつながることが確認された。

バヌアツでの各種開発プロジェクトは主にドナーによる支援とともにバヌアツ政府職員により実施されている。バヌアツでは伝統的文化であるチーフ制が色濃く残っているが、チーフは政府職員の立場にあることが多い。本研究では、バヌアツにおける漁村での水産業振興の活動を分析し、水産資源を有効に活用するためのシステム作り、住民の組織化・協同組合の設置を目的としたとき、これら開発プロジェクトを進める上で、水産開発普及員（政府職員）がどのような役割を担っているか、同時に伝統的チーフとしての2面性がどのような影響を与えているかを分析することにより、参加型開発における効果的なアプローチの仕方について考察する。

## 論文の構成

### 第1章 研究の背景と目的

- 第1節 研究の背景
- 第2節 研究の目的
- 第3節 事例の選定
- 第4節 研究の方法
- 第5節 論文の構成

### 第2章 バヌアツ共和国の文化的背景

- 第1節 バヌアツ共和国の様子
  - (1) バヌアツの地理
  - (2) ニ・バヌアツのアイデンティティ
  - (3) 植民地統治の影響
- 第2節 社会的構造とチーフ制について
  - (1) バヌアツの社会的構造の変遷
  - (2) 現代社会におけるカスタムとチーフ
  - (3) バヌアツ政府と全国チーフ評議会の関係性

### 第3章 バヌアツ共和国における水産業事情

- 第1節 バヌアツ共和国水産業一般事情
  - (1) バヌアツ共和国の産業
  - (2) バヌアツ共和国の水産業
- 第2節 マレクラ島水産業一般事情
  - (1) マレクラ島の様子
  - (2) マレクラ島の水産業

### 第4章 マレクラ島水産業の事例分析

- 第1節 漁業協同組合の組織化
- 第2節 水産マーケットの漁民への場としての役割
- 第3節 伝統的水産資源管理システム
- 第4節 水産開発普及員（政府職員）とチーフの2面性をふまえた開発アプローチ

### 第5章 結論と今後の課題

- 第1節 結論
- 第2節 今後の課題

## 論文の概要

本論文では第1章にて、先行研究から参加型開発ではさまざまな人や立場において、さまざまな捉え方があるなかで、開発行為を実施する主体と受益者の観点から、外部者と内部者の位置づけによる重要となる点を示す。また、参加型プロジェクトを志向する場合、現地住民のエンパワーメント達成には、プロジェクト初期段階における社会的準備が不可欠である事を示す。両研究の課題において、筆者が関係したバヌアツにおける水産業関連の開発プロジェクトを事例として、参加型開発について考察する前提を述べる。

第2章では、事例研究の対象となるバヌアツの地理や人口などの基礎情報を提示し、島嶼国故に土地、各種資源が限られており、人、物、情報の移動も厳しい環境にある状況を示す。また、多くの島々からなる環境で、多くの固有の言語を有し、違った文化を持つ人々によりバヌアツ国は形成されているが、バヌアツ人（ニ・バヌアツ）が意識しているアイデンティティについて述べる。次に、白人が入植する以前からあるバヌアツの伝統的社会構造およびチーフ制について、入植前、特徴ある2国による合同統治時代、独立後における変遷について、先行研究から分析する。

第3章では、バヌアツの主要産業は農業とサービス業である事を示し、サービス業の中でも重要な外貨収入源である観光業が急激に伸びている状況を延べ、その影響として観光客からのニーズが高い魚介類が首都地域で不足している様子を示す。そこで、ニーズに応えるべく水産業の活性化が期待されている状況において、バヌアツおよび筆者が関係したプロジェクトの実施地区であるマレクラ島の基礎情報とともに、水産業の状況を述べる。

第4章では、第1章で示した参加型開発における課題について、筆者が関わったマレクラ島における水産業に関連したプロジェクトを事例に分析を行う。水産業振興を目的とした漁業協同組合の組織化において、集落を対象とした地方部の組合組織化支援と、それら組合をまとめた州レベルの組合組織化に付いて分析する。次に、漁民が集う場の役割も期待されている水産マーケットの設置について、関係政府職員が協力して実施する様子を分析する。最後に、水産資源の有効活用を目的とした伝統的水産資源管理プロジェクトを進める際に、10を超える集落を取りまとめ、土地の所有権問題がある状況を調整した様子を分析する。これら開発プロジェクト活動を進めるうえで、開発の主体者としての水産開発普及員（政府職員）とチーフ（当該地域の伝統的リーダーであり受益者）であるという2面性の立場が与えた影響について分析する。

第5章では、第4章にあげた事例分析において、政府職員（水産開発普及員）と伝統的社会構造におけるリーダー（チーフ）の2面性を持った立場の人材が、参加型開発プロジェクトに関わる際のアプローチの仕方についてまとめる。

本研究では、特にプロジェクトの初期段階、社会的準備において政府職員の立場に加えて、伝統・文化的リーダーの立場を十分発揮した結果が効果的であり、一つの効果的なアプローチの方向性として提示する。同時に、参加型開発プロジェクトにおけるエンパワーメントとして、一般住民が期待された能力を身に付けていくことは、伝統・文化に基づいたリーダーの立場も変容することにつながる。開発の過程において、伝統、文化的な世話役、ご意見番などの良き伝統・文化を維持し、そのリーダー的立場を生かすことができる新しい立場は、どうあるべきかを研究することは、今後の課題とする。